
■早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

第7回原子力政策・福島復興シンポジウム

「東日本大震災と福島原発事故から7年～原子力バックエンド問題と福島復興の今後のあり方を考える～」
ご案内

早稲田大学は、レジリエンス研究所(WRRI)主催「第7回原子力政策・福島復興シンポジウム：東日本大震災と福島原発事故から7年～原子力バックエンド問題と福島復興の今後のあり方を考える～」を、2018年3月7日(水)午後、早稲田大学早稲田キャンパス19号館にて開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

【本シンポジウムの目的】

東日本大震災・福島原発事故から2018年3月11日で7年を迎えます。早稲田大学は、2011年5月に東日本大震災復興研究拠点を設立し、早稲田大学の知的共同体としての叡智を結集し、被災地復興に貢献すべく研究を行ってまいりました。

本シンポジウムでは、「フクシマの教訓」をふまえた今後のバックエンド問題(高レベル放射性廃棄物(HLW)の地層処分問題)に焦点を当てて議論します。また、東日本大震災・福島原発事故からの復興に取り組む福島県の状況と今後の課題について、福島県浜通り地域からの参加者とシンポジウム参加者を交えて議論したいと考えています。

【開催概要】

-
- ・ 日 時：2018年3月7日(水) 13:00～17:00(受付開始:12:30)
 - ・ 場 所：早稲田大学早稲田キャンパス19号館(早稲田大学西早稲田ビル)7階・710教室
<http://web.waseda.jp/gsaps/access/>
 - ・ 定 員：60名(先着順・無料)
 - ・ 申込・問い合わせ先：メールにてお申込み、お問い合わせ下さい。

【宛先】 jyuten-fukkou※list.waseda.jp(※を@ (半角)にして送信ください)

【件名】 シンポジウム申込

【内容】 1. 氏名(フリガナ) 2. ご所属 3. メールアドレス

- ・ 主 催：早稲田大学レジリエンス研究所(早稲田大学バックエンド問題研究会)
<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/index.html>
- ・ 後 援：早稲田大学総合研究機構、早稲田大学アジア太平洋研究センター、
早稲田大学環境総合研究センター(ふくしま広野未来創造リサーチセンター)(予)

※本シンポジウムは早稲田大学総合研究機構からの助成を受け開催します。

■プログラム ※プログラムは都合により変更になる可能性があります。

13:00:開会

【基調報告 13:05-13:30】

松岡俊二(早稲田大学アジア太平洋研究科・教授・研究代表者)

「東日本大震災・福島原発事故から7年、改めて『フクシマの教訓』とは何かを考える」

【第1部 13:30-14:55】

「フクシマの教訓」をふまえ、原子力バックエンド問題を考える

モデレーター：師岡慎一(早稲田大学理工学術院・特任教授)

報告 1

竹内真理司（日本大学文理学部・教授）

「地層処分と安全性評価」

報告 2

勝田忠広（明治大学法学部・准教授）

「核燃料サイクル政策と地層処分」

報告 3

松本礼史（日本大学生物資源科学部・教授）

「地層処分と社会的受容性」

討論者 1：黒川哲志（早稲田大学社会科学総合学術院・教授）

討論者 2：井上 弦（神奈川県農業技術センター・技師）

討論者 3：森口祐一（東京大学大学院工学系研究科・教授）

討論

【休憩 14:55-15:05】

【第2部 15:05-16:55】

福島復興のこれから：福島から日本の地域社会の持続可能な「かたち」を考える

モデレーター：勝田正文（早稲田大学環境・エネルギー研究科長・教授）

報告 1

遠藤 智（福島県広野町・町長）

「復興の 7 年から見えてきたもの」

報告 2

窪田亜矢（東京大学工学部都市工学科・地域デザイン研究室・復興デザイン研究体・特任教授）

「複線型の福島復興デザイン」

報告 3

菅波香織（未来会議事務局長・弁護士、福島県いわき市）

「未来会議と浜通り合衆国」

報告 4

島村守彦（いわきおてんと SUN 企業組合・事務局長）・磯辺吉彦（NPO 法人広野わいわいプロジェクト・事務局長）

局長）

「地域社会から福島復興のあり方を考える」

討論者 1：大手信人（京都大学大学院情報学研究科・教授）

討論者 2：森口祐一（東京大学大学院工学系研究科・教授）

討論者 3：友成真一（早稲田大学環境・エネルギー研究科・教授）

討論

【閉会挨拶 16:55-17:00】

松岡俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授・研究代表者）